

日本小児血液・がん学会 第9回理事会議事録

日 時：平成25年7月12日（金） 12:30～16:00

場 所：AP 浜松町 O ルーム

出席者：石井榮一（理事長）

越永従道（副理事長）、足立壮一、池田 均、今泉益栄、小原 明、工藤寿子、黒岩 実、
嶋 緑倫、滝 智彦、中澤温子、野崎美和子、細井 創、真部 淳、米田光宏（以上理事）
伊藤悦朗、福澤正洋（以上監事）
田口智章（第55回学術集会会長）
小田 慈（第56回学術集会会長）
杉田完爾（第57回学術集会会長）

欠席者：菊地 陽（理事）、原 純一、水谷修紀（以上オブザーバー）

I. 第8回理事会議事録（案）が確認され、承認された。

II. 審議事項

1. 「小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」について

越永副理事長より本事業のこれまでの経緯について、以下のように説明があった。

- ・本学会だけで緩和ケア研修を行うことが難しいため、各関連学会に声をかけ、委員会を設立し、研修事業の運営にあたってきた。
- ・昨年度は2012年7月・2013年1月・2月に緩和ケア研修、2013年2月に教育セミナーを開催した。
- ・本年度研修会は8月12月3日に緩和ケア研修会、秋と冬に脳腫瘍診断と治療についてセミナーを開催する。
- ・本事業の収支報告は本年学術集会中に行う決算書に組み込まれる予定である。

続いて、本事業の今後のあり方について議論を行ったところ、以下のような意見が述べられた。

- ・教育セミナーを開催していき、資格を取りやすく行うべきではないか。
- ・今後は本学会から委員を選出し、学会として研修会の舵を取っていくべきではないか。

本件については、今後、新たに理事長諮問委員会として本件に対応する委員会を設立することとなった。

（後日持ち回り審議を行い、「小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修等事業」委員会のメンバーが承認された。）

2. 理事後任選出について

石井理事長より、菊地理事が体調不良に伴って当分の間、業務を離れられることが報告された。

続いて、定款・細則に基づく本件についての対応を検討し、次回評議員会において、菊地理事の残存期間の2年任期の理事1名および内科系の人数調整のための2年任期の理事1名の計2名と4年任期4名の計6名の理事選出を行い、下位2名が2年任期とすることが了承された。

3. エボルトラ点滴静注 20mg 製造販売後調査及び適正使用への協力依頼について

サノフィ株式会社からの要望書（周知依頼）が示され、審議した結果、学会のホームページに要望書をそのまま掲載するのは不適切とされた。

本件については、石井理事長より同社に文章修正の依頼をすることとなった。

また、今後こうした案件に対応するためのホームページ掲載ルールを作成した方がよいとの意見が述べられ、検討していくこととなった。

4.チオテパ国内への早期導入に関する要望書について

本会を含め、3学会連名で送付した本要望書について、大日本住友製薬の永野氏、天草氏から以下の現状報告がなされ了承された。

- ・製造工程の中で毒性の高い物質が出ることが分かったため、国内での製造が不可能ということが分かった。
- ・海外での製造の可能性について10社に打診を行い、3社より連絡があったが、契約には至っていない。
- ・ヨーロッパで使用されているが、価格が高いため、仕入れて輸送する場合には以前より割高となってしまう。

5.新入会理事会承認について

新入会希望者22名につき承認された。

なお、従来は年会費納入と入会申込書送付が完了してから理事会承認となっていたが、今後は年会費納入を待たずに理事会承認を行うこととし、一方、学会誌は会費未納の会員には送付しないこととなった。

6.その他

(1) 第一回教育セミナーDVDについて

学術集会会場で配布、または学会誌に同封して配布することとなった。

(2) 年会費請求書発送について

前事務局より引き継いだデータに不備があり、再度入金情報の確認を行ったため若干発行が遅れたことが事務局より報告され、了承された。

II. 報告事項

1.庶務報告

越永庶務担当理事より、会員数等について報告があった。

2.常設委員会報告

1) 規約委員会

野崎委員長より旅費規定変更について提案があり、承認された。

なお、旅費宿泊費に関しては、やむを得ない場合は一泊のみ認めるという形になった。

また、航空運賃については領収書もしくは半券を事務局に提出することが確認された。

2) 編集委員会

嶋委員長より下記の通り報告された。

- ・50巻2号は7月に発刊予定
- ・査読者の選定について評議員の各専門分野を挙げ、査読者リストに記載することとなった。
大カテゴリー【小児科、小児外科、病理、放射線、支援】
小カテゴリー【固形腫瘍、中枢神経腫瘍、白血病・リンパ腫、骨髄移植、貧血、免疫、止血血栓、造血細胞移植、組織球症、脳腫瘍、看護、心理・社会、教育】
- ・学会誌頒布については、学会支援機構（代理店：丸善）を通じて販売することとし、購読料は年間12,000円と決定した。

3) 学術・教育委員会

細井委員長より学術賞について報告があり、以下のように了承された。

- ・血液基礎領域、血液臨床領域2名、がん基礎領域1名から応募があった。
- ・本年度も掘り起こし作業を行うこととなったが、次年度以降については改めて検討していくこととなった。
- ・応募論文と掘り起こし論文を同じ土俵で審査を行うのは問題ではないかとの意見が出され、委員会で検討していくこととなった。
 - ・良い論文であっても学会賞へ応募しないということは学会活動を行っていないという見方もできる

ので、学会賞のスタンスについても今後検討していくべきことが確認された。

・まずは周知を徹底していくべきとの意見が述べられ、メール配信等の方法を今後検討していくこととなった。

4) 保険診療委員会

黒岩委員長より下記の通り報告された。

- ・ブスルフェクス公知申請について日本造血細胞移植学会と共同提出を行う予定となった。
- ・診療報酬改定について陽子線治療について要望の提出を行った。今後、厚労省のヒヤリングが行われる。
- ・小児悪性腫瘍患者指導料の適応年齢枠は現在 15 歳までというルール撤廃の要望を提出した。

5) 専門医制度委員会

米田副委員長より報告があり、以下のように了承された。

- ・専門医試験を来年 2014 年 10 月 4 日～5 日に行うこととなった。
- ・申請方法は一次登録を行い、受験者数を確認し、その後二次登録として書類提出を行っていただく。
- ・2015 年以降は原則として 9 月の第 2 土日で開催する。
- ・出題の領域割合について提案され、承認された。
- ・小児腫瘍は固形腫瘍と血液腫瘍と確認された。
- ・問題作成委員には就任の依頼・確認を行い、最終的に 64 名となった。
- ・現在、試験問題案の一次登録中である。
- ・ブラッシュアップは今年 12 月泊まりがけで行う予定。
- ・試験問題の完成は 3 月を目指している。
- ・今後専門医試験は専門医を取得した先生にも作成を依頼する予定である。
- ・採点はマークシートを採用し、機材は小児科学会より借りる予定である。
- ・開始から 5 年間は基準が緩くなっているが、2016 年には規則通り認定外科医常勤や、放射線専門医常勤など厳しい条件が適用されるため、このままでは認定施設を更新できない施設が出てくる可能性がある。
- ・研修実績記録票や症例要約の形式 30 例の症例一覧記載形式が決定したため、今後ホームページと学会雑誌に掲載する。
- ・本年度審査について、最終的に、暫定指導医 28 名、研修施設 8 施設、研修集会 2 研修集会、小児がん認定外科医 21 名が合格となったことが報告され、承認された。
- ・教育セッションについて本年度の講師と座長が決定した。
- ・菊地委員長が体調不良のため、米田副委員長が委員長代行とし、小田先生が副委員長代行となった。

6) 国際委員会

真部委員長より下記の通り報告された。

- ・学会概要英文を作成した。
- ・SIOP とオフィシャルな関係を構築するための方策を今後検討していく。
- ・実態調査を堀先生が行い、JPLSG 登録 145 施設に送付したところ、61 施設より返信があった。
- ・Tomodachi AFLAC Program について 3 月に選考委員会が開催され、第 1 回受賞者として聖路加国際病院の細谷要介先生が選出された。

7) 理事・評議員資格審査委員会

今泉委員長より新規評議員の申請要項が提示され、承認された。

8) 利益相反委員会

滝委員長より、外部委員としてがんの子どもを守る会の石川氏に依頼することが再度確認され、承認された。

9) 臨床研究審査委員会

足立委員長より下記の通り報告された。

- ・臨床研究審査 33 と 35 を同時に送付いただいたと研究代表者より、一方の審査が未了であるとの連絡があったため、再度ご送付いただき、現在 35 を審査中である。
- ・今後同様のトラブルがおきないように、事務局に研究審査を送る際は Cc に必ず委員長を入れてもらうこととし、事務局は受け取りメールを必ず返信する。

10) ガイドライン委員会

米田委員長より下記の通り報告された。

- ・執筆者に連絡を行い、12 月に第一稿が出る予定である。
- ・がん治療学会のホームページに改定版を公開すべく調整を行っている。
- ・副委員長代行について今後検討していくこととなった。

11) 疾患登録委員会

小原委員長より下記の通り報告された。

- ・福島の事故に関する諸問題について、本学会より小原先生、藤本先生、水谷先生ならびに滝先生が事情をうかがいに行った。対応について今後検討していくこととなった。

4. 疾患委員会

1) 再生不良性貧血・MDS 委員会

工藤担当理事より別紙資料の通り報告された。

また、真部委員長より今後 MDS 治療研究会の abstract を学会誌に掲載する予定との報告があった。

5. 学術集会準備報告

1) 第 55 回日本小児血液・がん学会

田口学術集会会長より下記の通り報告された。

- ・演題登録が終了した。応募演題は昨年よりも若干少なかった。
- ・教育セミナーを受講する人は全部受けることが可能なプログラムになっている。
- ・Meet the expert を企画、6 名の先生に依頼を行い全員から快諾を得た。
- ・シンポジウムは演者が決定した。
- ・ランチョンは 14 枠について協賛企業を得た。

2) 第 56 回日本小児血液・がん学会

小田次期学術集会会長より下記の通り報告された。

- ・テーマが一部変更となったが、まだ検討段階である。
- ・アメリカ小児科学会と小児血液・がん学会合同シンポジウムを行う。
- ・血友病看護フォーラムは来年他の学会に行うため、当該枠が空く予定である。

なお、昨年より小俣氏のシンポジウムがプログラムに組み込まれているが、毎年行っていくことについては検討が必要との意見が述べられ、今後検討していくこととなった。

3) 第 57 回日本小児血液・がん学会

特に報告事項はなかった。

6. その他

1) 厚生労働科学研究費助成金「小児がんの臨床評価に関する研究」について

福島県立医科大学の小川千登世先生ならびに東京医科歯科大学の富澤大輔先生から説明があった。

- ・厚労省より指定型課題として 3 年間の班となっている。
- ・当初、ガイドライン委員長に依頼があったが、副委員長の米田先生は小児外科医のため、班メンバーとして参加をしている。
- ・来年以降は診療ガイドライン委員会より数名委員として参加をしたらよいのではないかと、あるいは保

険診療委員会の方が適切ではないか、等の意見が述べられ、来年以降検討・対応することとなった。

以上

次回は9月12日（木）12：30～ 場所未定